

特集 オオサンショウウオ
図鑑

川の食物連鎖で頂点に位置するオオサンショウウオは、たくさんの生き物に支えられて生きています。つまり、その生息地である下半田川蛇ヶ洞川エリアには、豊かな生き物や自然環境が残されているということです。このエリアは、平成25年に瀬戸市環境パートナーシップ事業者会議による河川清掃が開始され、令和元年には、市内初の「自然保護及び保全のための特定地区」に指定されました。今年3月には、川への不法投棄を防ぐための監視カメラが設置されるなど、地域・事業所・市が連携した、環境保護・保全の取り組みが進められています。

2,300万年前から生きてきた、人間よりずっと先輩のオオサンショウウオ。その大先輩がいなくなってしまわないよう、私たちにできることを今一度考えてみませんか。

掛川小学校の児童たちは、蛇ヶ洞川やその周辺に生息する生き物について、体験を通して学んでいます。昨年、地域の方たちと行った「自然観察会」で、体長92cmのオオサンショウウオに出会った時のこと

2023.6.1
身長92cm
体重4kg
の
オオサンショウウオ
に会いました

目が小さくて、
顔がかわいい
かった！

登校中に
出会ったこと
があるよ

触ったらぬるぬるして、
初めての感じだった！
でも足の裏はぬるぬる
じゃないよ

掛川小学校の児童の皆さん

で守つていくため
でできることつて何だろう

オオサンショウウオを

下半田川地域では、「貴重な自然やオオサンショウウオを守ろう」という意識が地域に根付いています。「瀬戸オオサンショウウオの会」のお二人に話を伺いました。

水野さん：「実は、オオサンショウウオの餌になる水棲生物も、田んぼなどの人の活動によって豊富になります。人と自然の共生の中で生きているんですね。ですが、最近は田んぼも減ってきたし、タガメやゲンゴロウのような水棲生物もほとんど見かけなくなっているのが課題です。会の活動としては、住民の数が減ってきて、高齢化も進んでいますが、活動の一つである河川の清掃時には、大橋運輸をはじめ、瀬戸市環境パートナーシップ事業者会議の地元企業の皆さんが川の中まで入り清掃をしてくれたり、地域外の方にも協力をいただいたりと、とても助かっています」

富田さん：「清掃活動や観察会には市外、県外からの参加者もみえます。まだの方は、ぜひ参加していただきたいですね。川への不法投棄をやめて、環境をきれいに保つことや、大規模開発をしないようにするなど、皆さんにも貴重な自然環境を守っていく意識を持っていただきたいです」

名古屋産業大学と瀬戸市環境課は協働して、この地域の環境保全について啓発活動を行ってきました。

啓発ゲーム「マイビオあいち」

エコレク部：「環境保全のためにには、次の世代が生き物に関心を持って、引継いでいくことが大事だと思います。そこで、子どもでも在来種と外来種について楽しく学べるカードゲームを考案しました。ゲームのいい点は、生き物の名前を声に出したり見た目を覚えたりと、無意識に学習ができるところです。ゲームを楽しんだ後は“実際に生き物を見てみたい”と思ってほしいです」

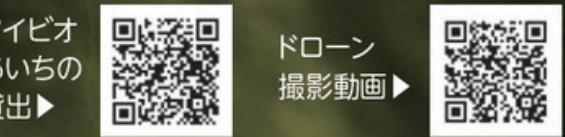


ドローンでの風景動画撮影

じゃがほらチーム：「撮影にあたり、川の清掃活動にも参加しましたが、不法投棄された冷蔵庫などがあり、驚きました。でも、そこで暮らすオオサンショウウオを実際に見てみると大きくてびっくりしますよ。一見全て同じ個体に見えますが、地域の方は一目見て、『ハナ元気か』と挨拶していたのが印象的でした。こうやって地域で守ってきた環境を次の世代に繋いでいくためにも、“珍しいオオサンショウウオがいるよ”というだけでなく、その生態や保全活動を知って、活動を引き継いでいく人が増えてほしいなと願っています」



名古屋産業大学の長谷川泰洋准教授(後列左)、
じゃがほらチームの元メンバーと
現エコレク部の皆さん



オオサンショウウオを見つけた場合▶文化課 ☎84-1740
特定地区、特定外来生物に関して▶環境課 ☎88-2670

瀬戸オオサンショウウオの会

下半田川地区自治会の全員(240人)が会に参加し、環境保全のための河川の草刈りや清掃活動、オオサンショウウオの夜間観察会、小学校の自然学習への協力などを実行しています。

平成11年：会の前身となる「サンショウウオを愛する会」が下半田川町で発足

平成24年：「第8回 日本オオサンショウウオの会 愛知(瀬戸)大会」が前年に瀬戸市で開催されたのを契機に、「瀬戸オオサンショウウオの会」が発足



会長 水野隆久さん 前会長 富田彪さん